

問 小中学校での健康診断後の健康管理を

全国保険医団体連合会の本年の調査では、再受診を必要とする児童・生徒の未受診率は、小学校49.2%、中学校71.5%である。未受診の理由は、健康への理解不足、新型コロナによる受診控え等であり、健康教育・指導の重要性が提言された。当市の状況は。

答 児童・生徒の健康管理を適切に進める

市内小中学校における未受診率は、全国保険医団体連合会調査の未受診率を下回っており、多くの児童・生徒が再受診を行っている。今後も、学校における児童・生徒の健康管理及び保健管理を適切に進めていくことができるよう、実施体制の充実を図っていく。



松本栄一 議員
(創政会)

問 総合運動公園アスレチック広場の改良を

各運動場は、幼稚園児からシニアまで多くの方に利用されているが、アスレチック広場は周知されていなく、幼児・園児が楽しく遊べる遊具がない。最近の遊具は進化しており、利用者ニーズを把握し、アスレチック広場を改良して、子育て世代に周知できないか。

答 広場情報を更新し市民への周知に努める

広場内の遊具は、安全性を最優先に適正な管理を行うとともに、老朽化した遊具は、利用者のニーズに沿ったものに更新していく。また、市公式ホームページにある公園の施設利用情報に、アスレチック広場の情報を加えるなど更新を図り市民への周知に努める。



総合運動公園のアスレチック広場

問 消防組合篠津分署の廃止を市長に問う

7月21日の資料には、昨年8月の第4回経営政策会議で合理化案に対する議論とだけあり、本年1月の第5回経営政策会議で篠津分署の廃止が決定されたとある。前市長からどう引継ぎ、第5回会議にてどのように現市長は主張し審議され、決定されたのか。

答 篠津分署の統合再編を着実に進めていく

第4回経営政策会議では、当時の市長からは、消防組合の副管理者として、合理化を進めるための旗振り役を行っていく考えが示された。また、第5回会議では、行財政上のスケールメリットや消防力などを検討した結果、篠津分署の統合再編を決定した。



黒須大一郎 議員
(白岡ビジョン)

問 未来を見据えた社会基盤整備を

蓮田市は、西口再開発を成し遂げ、財源確保につながる高虫西部地区産業団地も進展し、未来への社会基盤整備を進めている。未使用の東北道高速バス停施設を活用した交通インフラ整備と篠津北東部での新土地活用などで、近隣に遅れない社会基盤を整備すべきだ。

答 交通基盤を整え新たな土地利用を図る

既存のバス停を活用し、高速道路への出入口などを整備することは困難である。都市計画道路等の整備により、交通ネットワークの形成を図り、生活利便性の向上に努める。併せて、市内の農業振興との調和を図りながら産業系土地利用の推進を図っていく。



使われていない高速バス停施設